

教科名	数学	科目名	数学 I	学年	1	授業形態	必修
使用教科書・使用教材			担当教員	単位数	4	授業時数	156
教科書：改訂版 数学A (数研出版) 傍用問題集：改訂版 サクシード数学 I + A (数研出版) 参考書：NEW ACTION LEGEND 数学 I + A (東京書籍)							
学習目標	式の計算、集合と論理、2次関数、図形と計量、データの分析について理解し、基本的な知識や技能を習得するとともに、それらを的確に活用する思考力や判断力を伸ばす。また、発展的な学習にも触れ、知識を深めるとともに数学Ⅱの学習につながるようにする。						
授業内容の概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等			
	一学期	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式 第2章 集合と命題 (中間考査) 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次方程式と2次不等式 (期末考査)		展開、因数分解、3次式の因数分解(公式)にも触れる。 実数の分類、絶対値、平方根(分母の有理化) 2重根号も扱う 1次不等式、連立不等式の解法、絶対値を含む方程式や不等式 命題の真偽と反例、否定、必要条件・十分条件 命題の逆・裏・対偶、対偶を利用した証明、背理法 関数やグラフ、定義域と値域、放物線のグラフ 平方完成、2次関数のグラフの概形、グラフの移動 2次関数の最大値と最小値、条件から2次関数を求める 2次方程式の解法と判別式、2次関数とx軸の共有点の座標 2次関数とグラフの関係、2次不等式の解法 連立不等式の解法、2次方程式の解の存在配置の問題 絶対値を含む関数のグラフにも触れる。			
	二学期	第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 (中間考査) 第5章 データの分析 (期末考査)		正弦sin、余弦cos、正接tanの値を求め方、三角比の表の利用 三角比の相互関係、 $90^\circ - \theta$ の公式の利用 三角比の拡張、 $180^\circ - \theta$ の公式の利用、三角方程式 直線の傾きと正接 三角不等式にも触れる。 正弦定理、余弦定理、三角形の面積、内接円の半径 三角比を用いて空間図形の問題を解く ヘロンの公式にも触れる。 度数分布表、代表値(平均値、中央値、最頻値) 範囲、四分位数、四分位範囲、四分位偏差、箱ひげ図 分散、標準偏差、変量の変換、仮平均 散布図、相関関係、共分散、相関係数、相関表			
	三学期	発展的な学習 (学年末考査)		大学入学共通テストの問題演習や次年度につながる学習を行う。			
評価の観点と方法	年5回の定期考査を中心に、各学期の最初に実施する長期休業中の課題のテスト、長期休業中の課題の提出内容、各考査時に提出する課題の提出内容、授業の取り組みの状況を評価の観点に加えて、総合的に評価を判断する。						

教科名	数学	科目名	数学A	学年	1	授業形態	必修
使用教科書・使用教材			担当教員	単位数	2	授業時数	78
教科書：改訂版 数学A (数研出版) 傍用問題集：改訂版 サクシード数学I+A (数研出版) 参考書：NEW ACTION LEGEND 数学I+A (東京書籍)							
学習目標		場合の数と確率、図形の性質および整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。また、それらを的確に活用する能力を伸ばす。					
授業内容の概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等			
	一学期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数		集合における部分集合、共通部分、和集合、補集合の意味を理解し集合の要素の個数を求めることができる。 有限集合の要素の個数を系統的にうまく数えることができる。 順列、円順列、重複順列の考え方を理解し、場合の数を求めることができる。 組合せ、重複組合せの考え方を理解し、場合の数を求めることができる。			
	二学期	第2章 図形の性質 第1節 平面図形		独立な試行、反復試行の意味を理解し各事象の確率を求めることができる。 三角形の外心、内心、重心について理解を深める。 チェバの定理、メネラウスの定理を利用して線分の長さを求めることができる。 円周角の定理、円に内接する四角形、円と直線、方べきの定理について理解を深める。 2つの円の位置関係について理解を深める。 基本的な作図ができる。			
	三学期	第2節 確率		事象と確率および確率の基本性質を理解し、様々な事象の確率を求めることができる。 条件付き確率の意味を理解しその事象の確率を求めることができる。 (期末考査)			
二学期	第2節 空間図形		(中間考査) 空間における直線・平面の位置関係について理解を深める。 3垂線の定理について理解を深める。多面体についての性質を理解する。				
	第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数		約数と倍数に関して最大公約数・最小公倍数を求めることができる。 (期末考査)				
三学期	第2節 ユークリッドの互除法		素因数分解をせずに最大公約数を求めるとき、ユークリッドの互除法が有効であることを理解し使いこなせるようにする。1次不定方程式が解ける。				
	第3節 整数の性質の活用		n進法の意味を理解し、数をn進法で表すことができる。合同の意味を理解し、合同による余りの計算ができる。 (学年末考査)				
評価の観点と方法		年に5回実施する定期考査を主要な評価の機会とし、学習事項の定着と習熟を測る。 また、定期考査以外の各学期の宿題テストや、提出課題、通常の授業の参加状況などを評価の観点に加えて、総合的に判断する。					

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	学年	2	授業形態	必修：習熟度別
使用教科書・使用教材			担当教員	単位数	4	授業時数	156
『改訂版 数学Ⅱ』数研出版 『改訂版 サクシード数学Ⅱ+B』数研出版 『NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ+B』東京書籍							
学習目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟し、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を身に付ける。						
授業内容の概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等			
	一学期	第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式 点と直線 円 (中間考査) 軌跡と領域 第4章 三角関数 三角関数 加法定理 (期末考査)		式と証明、複素数と方程式はテストで学習の習熟を確認する。 2点間の距離や分点および三角形の重心の座標を求めることができる。 直線の方程式や直線と点の距離を求め、応用することができる。 円の方程式や円の接線の方程式を求めることができる。 習熟の状況を把握し、ふりかえりをおこなう。 条件を満たす軌跡を求めることができる。 不等式の示す領域が図示でき、身近な事象に結びつけることができる。 一般角や弧度法について理解し、三角関数に結びつけることができる。 また、三角関数のグラフを利用したり、方程式や不等式を解いたりすることができる。加法定理とその応用、三角関数の合成を理解し、利用できる。 習熟の状況を把握し、ふりかえりをおこなう。			
	二学期	第5章 指数関数と対数関数 指数の拡張 指数関数 対数とその性質 対数関数 常用対数 第6章 微分法と積分法 微分係数と導関数 (中間考査) 導関数の応用 積分法 (期末考査)		指数を有理数まで拡張し、計算方法を理解する。 指数関数のグラフや性質を理解し、大小関係や方程式の解法に活用することができる。 対数の定義や性質を理解し、基本的な計算方法ができる。 対数関数のグラフや性質を理解し、大小関係や方程式の解法に活用することができる。 常用対数を理解し、応用して、諸問題を解くことができる。 対数関数のグラフや性質を理解し、大小関係や方程式の解法に活用することができる。 常用対数を理解し、応用して、諸問題を解くことができる。 平均変化率、微分係数、導関数を求めることができる。 習熟の状況を把握し、ふりかえりをおこなう。 接線の方程式を求めたり、関数の増減を調べてグラフを書いたりすることができる。 不定積分と定積分を求めることができる。また、定積分を利用して、面積を求めることができる。 習熟の状況を把握し、ふりかえりをおこなう。			
	三学期	総合演習 (学年末考査)		数学Ⅱの学習内容を復習し、高度な演習問題を解くことができる。 また、学習内容を発展させて、数学Ⅱ以外の科目に結び付けることができる。 習熟の状況を把握し、ふりかえりをおこなう。			
評価の観点と方法	年間5回の定期考査を中心に、長期休業中の課題のテスト、長期休業中の提出課題の状況、考査時の提出課題の状況、授業における習熟の状況、授業に取り組む姿勢などを評価の観点とし、総合的に評価する。						

教科名	数学	科目名	数学B
使用教科書・補助教材		担当教員	
教科書：改訂版 数学B (数研出版) 傍用問題集：改訂版 サクシード数学II+B (数研出版) 参考書：NEW ACTION LEGEND 数学II+B (東京書籍)			

学年	授業形態
2	必修：習熟度別

単位数	授業時数
2	78

科目の目標	数列、ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 また、それらを的確に活用する能力を伸ばす。
-------	--

授 業 内 容 の 概 要	学 習 単 元	学 習 事 項 ・ 学 習 方 法 ・ 留 意 事 項 ・ 具 体 的 な 指 導 目 標
	一 学 期	第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルと演算 (中間考査)
二 学 期	第2節 平面図形とベクトル 第2章 空間図形とベクトル (期末考査)	線分の内分点、外分点を位置ベクトルで表す公式を理解している。 三角形の重心の位置ベクトルを表す公式を理解している。 ベクトルで表された等式を、位置ベクトルを用いて証明できる。 図形の性質をベクトルで表現して扱うことができる。 線分上の点を、線分をs:(1-s)に内分する点として処理できる。 直線ベクトル方程式を積極的に活用することができる。 空間ベクトルを平面上のベクトルの拡張としてとらえることができる。 ベクトルの内積を平面から空間へ拡張して考察できる。 ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解して、それらを利用できる。 空間において、3点が一直線上にあるための条件を理解している。 3点が同じ平面上にあるための必要十分条件を理解し、それを利用することができる。 いろいろな球面の方程式が求められる。
三 学 期	第3章 数列 第1節 数列とその和 (中間考査) (期末考査)	数の並び方に興味をもち、規則性を発見しようとする意欲をもつ。 数列に関する用語、記号を適切に用いることができる。 条件から等差数列の一般項を決定できる。 等差中項を理解し問題解決に利用できる。 等差数列の和の公式を適切に利用して、等差数列の和が求められる。
三 学 期	第2節 数学的帰納法 (学年末考査)	等比数列の公比、一般項などを理解している。 等比中項を理解し問題解決に利用できる。 等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。 自然数の2乗や3乗の和の公式を理解し使える。 和の記号Σの意味を理解し、数列の和が求められる。 群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。
三 学 期	第2節 数学的帰納法 (学年末考査)	数列の規則性の発見に、階差数列が利用できる。 階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 和に着目して、数列の一般項を求めることができる。 漸化式の意味を理解し、具体的に項が求められる。 おき換えを利用して、漸化式から一般項を求めることができる。 与えられた条件から、第n項と第n+1項の間に成り立つ漸化式を求めることができる。 数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。

評価の観点と方法	年に5回実施する定期考査を主要な評価の機会とし、学習事項の定着度・習熟度を測る。 また、定期考査以外の各種の小テストや、提出課題、通常の授業の参加状況などを評価の観点に加えて、総合的に判断する。
----------	--

教科名	数学	科目名	数学Ⅲ	学年	3	授業形態	選択
使用教科書・使用教材			担当教員	単位数	6	授業時数	234
『数学Ⅲ』 数研出版 『クリアー数学Ⅲ』 数研出版 『クリアー数学演習Ⅲ受験編』 数研出版 『新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅲ』 数研出版							
学習目標	複素数、極限や微分法及び積分法について知識の習得と技能の習熟を図り、理解を深める。またそれらを十分活用できるようにする。						
授業内容の概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等			
	一学期	微分法	導関数	導関数の定義を再確認し、連続性との関連を理解する。 積・商・合成関数・逆関数の微分法を理解し、公式を活用できる。 三角・指数・対数関数の導関数を理解し、公式を活用できる。 高次導関数を理解し、求めることができる。 種々の曲線について接線・法線の方程式を作ることができる。 平均値の定理を理解し、不等式の証明や極限に応用できる。 関数の増減を調べ、極値、最大最小を調べることができる。 曲線の凹凸と2次導関数の関連を理解し、調べることができる。 方程式・不等式について、曲線の概形を応用し解決ができる。 速度・加速度など運動への応用ができる。			
			関数値の変化				
			導関数の応用 (中間考査)				
	二期	積分法	不定積分 定積分	不定積分を、指数三角関数を含む場合でも求めることができる。 置換積分法を合成関数の微分法の逆として理解し、活用できる。 部分積分法を理解し、利用場面を判断して活用できる。 定積分を置換・部分積分法を活用して実行できる。 区分求積法と定積分の関係を理解し、和の極限に応用できる。 面積・(回転体)体積・曲線の長さの計算に定積分を活用できる。			
			積分の応用				
			(期末考査)				
	二期	式と曲線	2次曲線	放物線・楕円・双曲線の幾何学的な定義と方程式を理解する。 2次曲線と直線の位置関係と連立方程式の解との関連を理解する。 媒介変数表示によって表現される曲線について理解する。 極方程式と直交座標系での方程式との関係を理解できる。 複素数平面の導入で、複素数に実体を与えられることを理解する。 極形式を通し乗法と点の回転拡大との関係を理解し、活用できる。 ド・モアブルの定理を理解し、n乗の計算やn乗根の値に活用できる。 2直線のなす角、3点が一直線上にある条件・垂直条件、2点の位置関係など、複素数を平面図形について活用できる。			
			媒介変数表示と極座標				
		複素数平面 (中間考査)					
三期	問題演習		「クリアー数学演習Ⅲ受験編」を使用し、入試に対応した問題演習を行う。				
		(期末考査)					
三期	問題演習		入試に対応した問題演習を行う。				
評価の観点と方法	定期考査を主要な評価の対象とし、学習事項の定着度・習熟度を測る。 また、授業中の演習の解答作成、提出課題、通常の授業の参加状況などを評価の観点に加えて、総合的に判断する。						

教科名	数学	科目名	数A理
使用教科書・補助教材		担当教員	
数学A (数研出版) メジアン数学演習 I・A・II・B受験編 (数研出版)			

学年	授業形態
3	選択

単位数	授業時数
2	78

学習目標	数学I・A・II・Bの学習内容を応用し、大学入試問題に対応できる力を身に付ける。 また、発展的な学習をおこない、数学IIIなどの他分野との連携も図る。
------	--

授業内容の概要	学期	単元名 学習項目	学習内容	学習形態	
				家庭で学習すること(学習形態⇒確認方法)	学校で学習すること
授業内容の概要	一学期	・数学総合演習	・数学I A II Bの基本的な問題演習に取り組む。	・問題集のCheckを解く。 ・映像授業を閲覧する。 ・不明な点の質問をする。	
		・図形と式	・図形と式で学習した内容を発展し、さまざまな曲線について考察し、演習する。	・映像授業を閲覧する。 ・ワークシートに取り組む。 ・過年度に使用した問題集などに取り組む。 ・さまざまな曲線について学習、考察し、問題演習に取り組む。	
	二学期	・図形と式およびベクトル	・図形と式およびベクトルで学習した内容を発展し、さまざまな曲線、および媒介変数表示であらわされた曲線について考察し、演習する。	・映像授業を閲覧する。 ・ワークシートに取り組む。 ・過年度に使用した問題集などに取り組む。 ・さまざまな曲線について学習、考察し、問題演習に取り組む。	
		・数列	・さまざまな数列や漸化式の問題を解く。また、数学的帰納法を用いた証明方法を学習する。	・映像授業を閲覧する。 ・問題集に取り組む。 ・解法や証明法について学習する。	
		・三角関数および指数関数・対数関数	・三角関数や指数・対数の基本的性質を確認し、演習問題を解く。	・映像授業を閲覧する。 ・問題集に取り組む。 ・諸問題の解法を学習する。	
		・確率	・基本的性質を復習し、反復試行や条件付き確率などの発展した内容の問題演習に取り組む。	・映像授業を閲覧する。 ・問題集に取り組む。 ・諸問題の解法を学習する。	
		・整数	・整数の性質を復習し、不定方程式やn進法について学習し、問題演習に取り組む。	・映像授業を閲覧する。 ・問題集に取り組む。 ・諸問題の解法を学習する。	
	三学期	・入試問題演習	・入試問題演習	・総合問題を解く。 ・総合問題を解き、数学に対する力を深める。	

評価の観点と方法	定期考査を主として、授業の取り組みの様子、小テスト、映像授業の取り組みの状況、自宅学習の取り組みの状況、提出課題の状況などを総合的に判断し、評価をする。
----------	--

教科名	数学	科目名	数学Ⅱγ	学年	3	授業形態	選択
使用教科書・使用教材			担当教員	単位数	2	授業時数	78
『メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B受験編』 (数研出版) 『数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学B』 (数研出版)							
学習目標	数学ⅠおよびⅡの分野を中心に総復習をし、応用力を養うことで、難関大学の入学試験に対応できる能力を身につける。						
授業内容概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等			
	一学期	数と式 関数と方程式・不等式 (中間考査) 三角・指数・対数関数 (期末考査)		恒等式・割り算の問題 方程式・不等式の解法 絶対値を含む方程式・不等式が解ける。 最大・最小 2次方程式の理論 種々の方程式の問題 不等式の種々の問題 2次関数のグラフを利用して問題を解く。 剰余の定理・因数定理を利用して問題を解くことができる。 三角比と三角形 三角関数 指数・対数の種々の問題 三角関数・指数関数・対数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。 関数の最大値・最小値を求めることができる。			
	二学期	微分法 ・ 積分法 (中間考査) 積分法 (期末考査)		導関数、接線 関数の増減・極値、最大・最小 方程式・不等式への応用 関数の最大値・最小値を求めることができる。 グラフを利用して、方程式の解の個数を調べたり、不等式を証明することができる。 積分の計算 定積分で表された関数、面積 定積分と微分との関係を理解できる。 図形の面積を求めることができる。			
	三学期	問題演習		入試問題に対応した問題演習			
評価の観点と方法	定期考査を主要な評価の対象とし、学習事項の定着度・習熟度を測る。 また、授業中の演習の解答作成、提出課題、通常の授業の参加状況などを評価の観点に加えて、総合的に判断する。						

教科名	数学	科目名	数学B γ	学年	3	授業形態	選択
使用教科書・使用教材			担当教員	単位数	2	授業時数	78
『メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編』 (数研出版) 『数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学B』 (数研出版)							
学習目標	数学Bのベクトル・数列、および数学Aの整数・図形分野について総復習をし、応用力を養うことで、難関大学の入学試験に対応できる能力を身につける。						
授業内容の概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等			
	一学期	数列 (中間考査) ベクトル (期末考査)		等差数列・等比数列(数列の一般項および和) 種々の数列(種々の数列の和、群数列等) 漸化式と数列(漸化式と一般項等) 数学的帰納法(等式や不等式、数列の一般項の証明) 数列の応用(格子点、確率漸化式等) ベクトルの基本(ベクトルの演算、成分等) ベクトルと内積(垂直条件、三角形の面積等) ベクトルと平面図形(共線条件、ベクトル方程式等) ベクトルと空間図形(同一平面上の点の扱い等) 問題集、追加課題による演習により、内容の習熟を図る。			
	二学期	場合の数・確率 整数の性質 (中間考査) 図形の性質 問題演習 (期末考査)		順列、組合せの考えを活用した数え上げ 数え上げによる確率の求め方、反復試行の確率 約数と倍数、不定方程式の解法、余りによる分類等 多面体の性質等 共通テストに対応した問題演習 問題集、追加課題による演習により、内容の習熟を図る。			
	三学期	問題演習		入試問題に対応した問題演習			
評価の観点と方法	定期考査を主要な評価の対象とし、学習事項の定着度・習熟度を測る。 また、授業中の演習の解答作成、提出課題、通常の授業の参加状況などを評価の観点に加えて、総合的に判断する。						

教科名	数学		科目名	数学Ⅱα	学年	3	授業形態	選択
使用教科書・使用教材				担当教員				
使用教科書「数学Ⅱ」「数学B」 (数研出版) 補助教材「リンク数学演習ⅠAⅡB」 (数研出版)								
学習目標		<ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅱおよび数学Bの全単元について復習する。 ・応用力を養い共通テストに対応できる数学の学力を身につける。 						
授業内容の概要	学期	単元名・学習内容			学習方法・留意事項・具体的な学習目標等			
	一学期	<ol style="list-style-type: none"> 1. 三角関数 2. ベクトル 3. 数列 4. 式と証明 5. 複素数と方程式 6. 図形と方程式 7. 指数関数と対数関数 8. 微分法と積分法 			<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の基本問題レベルの問題を確実に定着させる。 ・問題演習を通じて思考力・表現力の育成に努める。 ・自ら変数を設定して処理する問題など、問題解決の構想から結論に至るプロセスを自ら考え、処理する能力を養う。 ・限られた時間の中で適切な答えを素早く確実に導き出す。 			
	二学期	<ol style="list-style-type: none"> 1. 三角関数 加法定理・2倍角の公式・合成 2. ベクトル 位置ベクトル・内積 3. 数列 等差数列・等比数列・Σ・漸化式 4. 式と証明 恒等式・相加平均相乗平均 5. 複素数と方程式 複素数・解と係数の関係 6. 図形と方程式 点と直線・円・軌跡・領域 7. 指数関数と対数関数 8. 微分法と積分法 導関数・接線・極値 曲線で囲まれた図形の面積 			<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の基本問題レベルの問題を確実に定着させる。 ・問題演習を通じて思考力・表現力の育成に努める。 ・自ら変数を設定して処理する問題など、問題解決の構想から結論に至るプロセスを自ら考え、処理する能力を養う。 ・限られた時間の中で適切な答えを素早く確実に導き出す。 ・共通テストに対応できる数学の力を身につける。 			
	三学期	問題演習			入試問題演習			
評価の観点と方法		<p>定期考査を主な評価の対象とし、学習した内容の定着度・習熟度を測る。 また、提出課題、通常の授業の参加状況などを評価の観点に加え、総合的に判断する。</p>						

教科名	数学	科目名	数I α	学年	3	授業形態	選択
使用教科書・使用教材			担当教員	単位数	2	授業時数	78
教科書 数学I (数研出版) 使用教材 リンク数学演習I・A+II・B受験編 (数研出版)							
学習目標	数学Iと数学Aを総合的に学習し、基本事項の確認に取り組む。あわせて基本問題の演習に取り組み、一定以上の問題を解くことができる。また、大学共通テストの「数学I・数学A」の問題を解くことができる。						
授業内容の概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等			
	一学期	<ul style="list-style-type: none"> 数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析 ○中間考査		<ul style="list-style-type: none"> 使用教材を用いて、基本事項の確認、問題演習に取り組む。必要に応じて、ワークシートを用いて演習の補強に取り組む。 大学入学共通テストを目標に見据えて、その問題演習の基本事項を一学期中に身に付けるようにする。 授業の復習は必ず取り組み、必要に応じて予習にも取り組む。 			
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> 場合の数と確率 図形の性質 整数の性質 ○期末考査		<ul style="list-style-type: none"> 特定の分野に絞らず、あらゆる分野の問題や融合問題に取り組む、総合的な学力を身に付ける。 一学期中に身に付けられなかった基本事項を身に付けられるようにする。 			
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> 数学Iおよび数学Aの総合問題の演習 (基本的な内容) ○中間考査 大学入学共通テスト「数学I・数学A」の実践問題の演習 ○期末考査 		<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テストの実践問題や大学入試センター試験の問題を活用し、総合的な学力を身に付ける。正確性と迅速性を身に付けるようにする。 			
評価の観点と方法	4回の定期考査を主な評価対象として、授業中の取り組みの様子や演習問題の取り組みの状況、授業の参加の状況を評価の観点に加えて、総合的に判断する。						